

甲府市の歌

作詩 輿石保之
作曲 甲府市の歌審査委員会

1

さわやかに 山なみあけて
日にはえる 甲府盆地よ
朝 朝に 富士をあおげば
胸はもえ カみなぎる
甲府市は 希望よぶ町
希望よぶまち

2

武田菱 かがやく歴史
しのびつつ はげむあけくれ
町 町に 光あふれて
咲きかおる 文化ゆたかに
甲府市は 夢をよぶ町
夢をよぶまち

3

虹わたる ぶどうの丘に
ほのぼのと かすむ湯けむり
窓 窓に えがお あかるく
もりあがる 県都われらの
甲府市は あすをよぶ町
あすをよぶまち

武田節

昭和 36 年
作詩 米山愛紫
作曲 明本京静

一

甲斐の山々 陽に映えて
われ出陣に うれいなし
おのおの馬は 飼いたるや
妻子(つまこ)につつが あらざるや
あらざるや

二

祖霊(それい)まします この山河
敵にふませて なるものか
人は石垣 人は城
情けは味方 仇(あだ)は敵
仇は敵

《詩吟》

疾如風(ときことかぜのごとく)
徐如林(しずかなることはやしのごとく)
侵掠如火(しんりやくすることひのごとく)
不動如山(うごかざることやまのごとし)

三

つつじヶ崎の 月さやか
うたげを尽くせ 明日よりは
おのおの京を めざしつつ
雲と興(おこ)れや 武田武士
武田武士